

奄美新聞社ホームページ



[トップ](#) [会社概要](#) [企業理念](#) [販売店](#) [人気記事](#) [イベント](#) [関連企業](#) [奄美の名店](#) [郷友会](#) [今日の記事](#)

2015.09.01

カテゴリ：東京通信

「奄美島うた・のど自慢大会」



島唄や新民謡などが繰り上げられた「奄美島うた・のど自慢大会」



右から、新民謡の部優勝の吉田清果さん、特別ゲストの城南海さん、島うたの部優勝の指宿桃子さん

大勢の観客でにぎわう

吉田さん（新民謡）、指宿さん（島うた）優勝 城南海さんが美声披露

【東京】「奄美島うた・のど自慢大会」（堀江元文二東京奄美文化交流協会会長・野沢有得奄美島うたのど自慢実行委員会委員長主催）が30日、東京目黒の目黒区民センターホールで開催された。今回で6回目となる同大会は回を増すごとに知名度も上がり、この日も大勢の観客でにぎわった。今年は、テレビ番組「カラオケバトル」で7連勝をして人気を集めている奄美の若手歌姫の城南海さんがゲストということもあり、約400席のチケットは5月で完売した。

当日はあいにくの雨にもかかわらず開場前から歌好きな島出身者が大勢詰めかけ、島唄、新民謡に懐かしいひとときを過ごした。今回から奄美会の青年部もスタッフとして参加、島のイベントを盛り上げた。一部の島唄部門には19人が出場、二部の新民謡の部には14人が出場し、自慢ののどを競った。

最年少の小学3年生から最年長は82歳と幅広い層の出演者が、思い思いの曲で奄美の魅力が盛り込まれた歌を、訪れた人たちを前に、堂々と歌い上げた。中にはアカペラでの島唄もあり、会場を沸かせた。

また、二部の締めには、島唄部門に出ている若者たちがステージに集って歌アジビを披露、さらに歴代の優勝者の歌も披露された。

三部のゲストショーには、碓浩二さん、日高三郎さんが出演、琉球舞踊と新民謡で、ステージを盛り上げた。四部は、スペシャルゲストショーで、城南海さんがその美声を響かせ、来場者の心を虜にした。

フィナーレに島のブルース、ワイド節、六調が流れると、客席からも踊りの輪が広がり、会場が一つになって、島のイベントを楽しんだ。訪れた人からは、ステージ上の若者の姿に「島唄が歌い継がれていることを実感した。うれしい」との声が聞かれた。

島唄部門の優勝者の指宿桃子さんは「4度目の挑戦でやっと手にできました」と喜びを語った。また、新民謡の部で優勝した吉田さんは、北海道出身。昨年は奄美での新民謡大会でも受賞している。受賞者には、賞状とトロフィー、優勝者には、副賞としてパナソニック・エア奄美往復航空券が授与された。

審査委員長を務めた小川学夫さんは、「島をしのぐ勢いを感じた。パワーで押す歌もいいが、しみじみとした歌もまたいい。もうすこし、東京らしさを目指してもいいのではないかと、感想を語った。大会運営総括委員長の榎山浩三さんは、「『プロではない誰もが出ることができる会が作れたら』とこの会を発足した。これからも島唄のすばらしさを伝えていきたい」と抱負を語った。

ゲスト出演した城南海さんは「出演できてうれしかった。これからも、島出身者の若者の一人として、みんなと奄美を盛り上げていきたい」と意欲を見せた。

受賞者は次の通り(敬称略)。

【新民謡の部】優勝=吉田清果「名瀬セレナーデ」▽準優勝=久原卓也「ルリカケス」▽3位=新元 空「島むすめ」▽審査員賞=瀬戸山千夜子「太陽(ティダ)の島」

【島うたの部】優勝=指宿桃子「むちゃ加那」▽準優勝=勇 みつえ「長雨きりや上がり節」▽3位=福田 順之「東れ世ぬ春加那節」▽審査員賞=永井 枝子「黒だんど節」▽奨励賞 =小幡美紀「むちゃ加那」

8+1 ツイート いいね! 34

← 前の記事

次の記事 →

コメント

タイトル :

お名前 :

認証コード **2836**

コメント :

コメントは管理者の承認後に表示されます。

コメントする

[↑ページのトップへ / トップ](#)

Copyright © 2015 奄美新聞社 All Rights Reserved.
鹿児島県奄美市名瀬港町16番11号, 0997-53-6333

powered by **Quick Homepage Maker 4.91**
based on PukiWiki 1.4.7 License is GPL. QHM

